

公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

Summer 2017
No. **99**



2017 年 SPRING



福岡女子大学広報誌99号を
お読みいただき
ありがとうございます。

キャンパスの整備も進み、3月
に完成した本部棟へと続くメイ
ンストリートの沿道には、桜の木々
が植えられました。

今年は桜の開花が全国的に遅
かったようです。本学でも、例年
は卒業式の頃に咲き始め、入学式
を迎える頃には散ってしまう花び
らも、今年は入学式の頃によろ
やく咲き始め、授業が始まり新入生
の楽しいな喧噪のなか、ひっそり
と散っていました。

さて、次号は創刊100号の記
念号になります。

開学から94年を迎えた長い歴史
と伝統、そして新しい伝統を作る
ため、100周年へと動き出した
福岡女子大学を紹介する記念の号
としていきたいと思えます。ぜひ
100号もご期待ください。



公立大学法人
福岡女子大学
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
Tel.092-661-2411 (代表) Fax.092-661-2415
<http://www.fwu.ac.jp/>

特集
1

理事長・学長 梶山千里
瑞宝大綬章 受章記念座談会

教養を備えた次代のリーダーへ

特集
2

密着レポート！
新入生 CAMPUS LIFE



本学の梶山千里理事長兼学長が、平成29年春の叙勲で栄えある「瑞宝大綬章」を受章されました。

梶山千里 瑞宝大綬章受章

福岡女子大学理事長・学長

平成29年度の春の叙勲で、本学の梶山千里理事長兼学長が瑞宝大綬章を受章され、平成29年5月9日に皇居・宮殿「松の間」において天皇陛下から勲章を親授され、安倍首相より勲記を渡されました。本受章理由について内閣府は、「九州大学長等として多年にわたる教育に尽力するとともに、高分子化学の研究に優れた業績を挙げ、学術の発展に貢献した」と紹介しています。

瑞宝大綬章（ずいほうだいじゅしょう）は、瑞宝章の最高位の勲章です。国家、または公共に対し功労があり、公務等長年にわたる従事し、成績を挙げた者を表彰する場合に授与すると定められています。

学歴

昭和39年 3月 九州大学 工学部応用化学科 卒業
昭和41年 3月 九州大学大学院 工学研究科応用化学専攻 修士課程修了
昭和44年 5月 マサチューセッツ大学大学院 高分子工学科 博士課程修了

主な経歴

昭和45年 8月 九州大学工学部助手
昭和50年10月 九州大学工学部助教授
昭和59年11月 九州大学工学部教授
平成12年 4月 九州大学大学院工学研究院長・学府長・学部長（13年11月まで）
平成13年11月 九州大学総長
平成16年 4月 国立大学法人九州大学総長（20年9月まで）
平成20年11月 独立行政法人日本学生支援機構理事長（23年3月まで）
平成23年 4月 公立大学法人福岡女子大学理事長・学長（現在に至る）

学位

昭和44年 5月 Ph. D.（マサチューセッツ大学）
昭和50年 7月 工学博士（九州大学）

団体・公職歴

平成15年 6月 国立大学協会副会長（20年9月まで）
平成18年 2月 文部科学省高等教育局 中央教育審議会 専門委員（23年1月まで）
平成19年 3月 内閣府 知的財産戦略本部員（21年3月まで）

学外での活動

平成20年10月 福岡県教育力向上福岡県民運動推進会議 委員（会長）（27年3月まで）
平成22年 4月 大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会 委員（委員長）（27年6月まで）

専門分野

高分子構造・物性、有機材料

CONTENTS

01 THE世界大学ランキング 日本版結果

02-05 特集

瑞宝大綬章受章記念座談会 理事長・学長 梶山 千里
教養を備えた次代のリーダーへ

06-08 特集

密着レポート！
新入生CAMPUS LIFE

09-12 FWU NEWS

09 events

・入学式
・開学記念式典

10 international

・春学期WJCプログラム開講式／WJC留学生インタビュー
・CASEUF

11 outreach

・福岡女子大学女性トップリーダー育成研修
・東部地域大学連携シンポジウム
・宗像市との包括的連携協定
・高木秋子展

12 academic life

・日本産業衛生学会 優秀査読者賞受賞
・日本語パートナーズの活動レポート
・みやざきの豚と柑橘を使ったレシビコンクール グランプリ受賞
・若い世代に向けた適正飲酒を呼びかけるガイドブック作成

13-14 INFORMATION

13 ・平成29年度科学研究費助成事業
・人事消息（平成29年4月1日付）

14 ・福岡女子大学 平成29年度公開講座（7月～10月実施分）のご案内
・教員図書紹介



公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.99 Summer 2017

「THE世界大学ランキング 日本版2017」で
総合48位、国際性7位にランクイン

大学ランキングのひとつである「THE世界大学ランキング 日本版 2017」において、福岡女子大学は総合ランキングで48位、ランキング指標のひとつ「国際性」で7位となりました。

また、参考データとして発表されたランキングでは、「留学経験者の割合（短期）」5位、「留学経験者の割合（中長期）」22位、「外国人留学生の割合」33位と、いずれも国際性を示す指標で上位となり、本学の特徴である国際教育が大きく評価される結果となりました。

ランキング指標	順位	スコア
総合ランキング	48位	59.8
教育リソース	105位	48.6
教育満足度	70位	73.6
教育成果	121位	42.7
国際性	7位	85.7

※「THE世界大学ランキング 日本版」は、「THE世界大学ランキング」を手がけるイギリスの高等教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education【THE】）』がベネッセグループの協力のもと作成したもので、THEが今後力を入れる国別の大学ランキングとして、日本版はアメリカ版に次いで2か国目。





梶山 私は、九大工学部の実用化学科を卒業し、大学院の修士課程は九州大学、博士課程は米国のマサチューセッツ大学で学びました。専門は高分子物理学です。身近なもので言えば、ゴムやプラスチックが高分子でできています。最初は、表面

西山 受賞理由に研究業績がありますが、どのような研究をされてきたのでしょうか。

学問も趣味も全力で 取り組んだ大学時代

梶山学長（以下梶山） 今までの賞は、基本的に自分の仕事への評価でしたが、今回の受賞は、同僚の研究者、九州大学、日本学生支援機構、さらに福岡女子大学の多くの皆様の支援のおかげと感謝しています。この受賞は私にとって、集大成とも言えるものです。

新開副学長（以下新開） この度は、瑞宝大綬章の受章おめでとうございます。学長はこれまで様々な賞を受賞されていますが、今回の受章に対して何か異なる思いがございましたか。

「瑞宝大綬章」の受章は これまでの集大成

教養を備えた次代のリーダーへ

梶山学長の瑞宝大綬章の受章を記念して、
新開副学長をコーディネーターに、
梶山学長と留学経験のある学生3人による
座談会を行いました。
梶山学長の猛烈な学生・留学時代の話に始まり、
これからの女性に求められる資質や素養について
語り合いました。



新開 章司
副学長兼教育・学習支援センター長



梶山 千里
理事長・学長



多様性に触れることで 得られるものは多い

岡坂 修士を終えて米国に留学されていますが、当時は今と違って大変だったのではないですか。

梶山 私が留学したマサチューセッツ大学は、当時高分子物理で世界一でしたので勉強も大変でした。授業の内容は順番に学生が授業をして、先生や学生の様々な質問に答えなければならず、授業する順番が回ってくる、一週間で約250頁の論文を読んで勉強しました。1年目は2科目しか選択しませんでした。4科目信がついてきたので2年目は4科目選択しました。すると、米国の学生が「死ぬから3科目に減らせ」と言うのです。負けん気を出して、なんとか4科目とりましたが、本当に死ぬ思いをしましたね。しかし学位は、3年かかるところを2年半で取得することができました。

岡坂 研究にかなりの時間を費やされていたようですが、学生時代、趣味はお持ちでしたか。

梶山 1年生の時は、60年安保闘争で授業がなかったため、欧米文学を中心に400冊の本を読みました。1日300頁読むのが普通でしたね。アルバイトもしていましたし、趣味の社交ダンスの教習所にも熱心に通っていました。もちろん、勉強も疎かにしていませんでしたよ。1日25時間欲しいと思っていました。



マサチューセッツ大学 卒業



西山 私は留学中、異文化の違いを肌で感じていました。そのような留学で経験したことをどのように活かしたらいいでしょうか。

梶山 留学をすれば、留学をしない人より確実に経験を積んでいきます。物事の善し悪しは、経験すればするほどわかってくるものです。多様性に触れたことは物事を判断する上で役に立つはずですよ。

竹内 学長は、留学の経験をどのように活かしてこられましたか？

梶山 私が学長に就任して本学がどれだけ変わったか、現状を見ていただいたらわかるでしょう。イギリスの有力紙「FINES」で日本の大学のランキングが紹介されていましたが、約800ある大学の中で福岡女子大は48位。公立大学では全国で5位。女子大ではお茶の水女子大学に続いて2位です。また、学生は卒業するまで約70%が長期あるいは短期留学をしています。この留学実績も素晴らしいですよ。これからの時代は、教養が大切になります。教養が行き着くところは、創造性であり感性です。

国際教養学科3年
岡坂 明日花さん
福岡県立久留米高等学校出身
高校時代にカナダに留学経験があり、大学ではベルギーに1年間留学。

環境科学科4年
西山 佑さん
福岡県立東筑高等学校出身
タイとベトナムに半年ずつ留学。留学先では北九州市のJICA事業を研究。

食・健康学科4年
竹内 就子さん
佐賀県立武雄高等学校出身
スウェーデンのルンド大学に1年間留学。管理栄養士を目指して勉強中。

Campus Life



福岡女子大学の新入生に密着レポート！

勉強だけじゃない、充実のキャンパスライフや
留学生との生活をおくる、なでしこ寮での1日に密着。
その暮らしぶりをのぞかせてもらいました。

One Day TIME SCHEDULE

6:30	起床
7:50	朝食
8:50	1限目 授業開始
10:30	空コマは自習
12:00	昼食
13:00	3限目 授業開始
16:10	寮に戻って サークル準備
17:30	学外での サークル活動
21:00	帰寮 お風呂・夕食
22:00	課題・自由時間
24:00	就寝



国際教養学科1年

佐藤 莉望 さん

Rino Sato

教養を備えた次代のリーダーへ



何事にも興味を持ち、
感性や創造性を磨く

岡坂 学長は「感性」を重視されています。感性という文系のイメージがあるのですが、理系出身の学長が重視されるのはなぜですか？
梶山 私の中では理系も文系もありません。昔は九州大学に教養部があり、その中で人を思いやる心など、感性を学ぶ機会がありました。大学の学生にはぜひ、感性を学んでほしいと思っています。来年から「感性」の授業も始めます。その準備のために今、学生に混じって九州大学の授業を受講しているんですよ。「感性とは何か」と聞かれることがありますが、その時は「人の気持ちを労って良い行動をすること」と答えています。創造性も必要ですが、まずはそこが感性の入口です。創造性を身に付けたければ、身の周りの現象に興味を持ち、不思議に思ったことを追求すればいいのです。デザイン教育の授業では、自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら実行に移すことを学ぶでしょう。創造性を学んでいるのです。また、本学は文理統合で文も理もありません。文理統合と聞くと、文系の人が理系を、理系の人が文系

トップリーダーには
志と感性が必要

を学ぶことと思われがちですが、同じ理系や文系の専門外の分野を学ぶことも大切です。専門外のことを学べば感動を覚えます。それが創造性につながるはずです。



竹内 本学は、女性として身に付けるべきものにリーダーシップを掲げています。女性リーダーに求められる資質・素養は何でしょう。
梶山 リーダーに性別は関係ありません。分類するならば、トップリーダーとリーダー。トップリーダーは志や感性が不可欠ですし、リーダーシップを発揮できる人。リーダーは、志や感性はまだ十分に備わっていないけれど、人を導くための道具を知っている人です。

た言葉を解説したものです。そこに独創性はほとんどありません。道具を超えたところに自分の考えとしての個性があります。もし、リーダーがトップリーダーを目指すのであれば、様々な課題が出てくるはずですが、それを克服しようと自分なりの方法を見出す中で志や感性が養われます。そこに到達すればトップリーダーになることができます。皆さんにはまず、企業の課長になるにはどんな資質が必要か、どの様な準備をしたらいいのか、わかってほしいですね。
西山 学術分野でのリーダーシップとはどんなものでしょうか。
梶山 物理や化学を習ったからリーダーになれるというわけではありません。心の問題です。それに近い学問が、人として必要な素養を学ぶ倫理です。リーダーになるにはこの素養を備えていなければなりません。
竹内 リーダーとして判断に迷った時はどうすれば良いでしょうか。
梶山 人生には選択しなければならぬ時があります。その時の判断のベースになるのは経験の豊富さです。海外に行けと言っているのも、豊富な経験を積んでほしいからです。

あと2年で本学を
徹底的に変える

新開 最後に、今後の豊富をお聞かせいただけますでしょうか？
梶山 私はあと2年、本学のために頑張ろうと思っています。その間に、本学の教育を徹底的に変えるつもりです。男性と比較して女性は、耳が良く音感に優れています。それから忍耐力がある。これはコミュニケーションや語学に圧倒的に有利です。これからはネットワークが必要になります。女性が上手。社会の動きを見てフレキシブルに動けるので、社会の変化に追いつくのも早いでしょう。そして、生きるために必要な厚かましきも持っている。若い時代は二度と来ないので、女性の優れた感性を活かして頑張してほしいですね。



英語と異文化交流に
魅かれて福岡女子大へ

私が福岡女子大学を志望したのは、英語を学ぶ環境に魅かれたからです。中学生の時から英語がとても好きで、英語を使う仕事に就きたいと思っていました。

留学生の多い大学はほかにもありますが、福岡女子大には、アジアだけでなく欧米など幅広い地域の学生がいるというのが魅力だと思います。英語だけで行われるAEPという授業があること、留学生と同じ部屋で1年間の寮生活を送れること、そして、九州の大学に進学してほしいという親からのすすめもあり、高校1年生のときには、絶対に福岡女子大に行こうと決めました。じつは、気持ちが高まりすぎてハチマキまで作っちゃって…(笑)。油性ペンで「福岡女子大学絶対合格」と書いた黄色のハチマキは、いまでも自宅に飾られています。

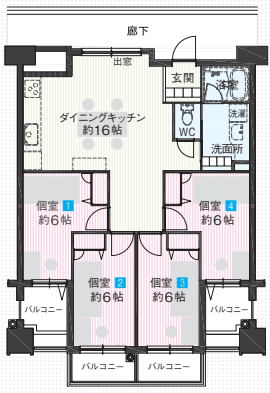
将来の夢は、英語力を活かしてグラウンドスタッフになること。そのために3年次までに語学研修か留学を経験して英語力を高め、欧米言語文化履修コースに進みたいと考えています。将来の選択肢を広げるために、教員免許の取得も視野に入れているところです。

ルームメイトの存在

寮生活で良かったと思うことは、たくさんあります。バルコニー付の個室がある一方で、ダイニングキッチンやバスルームなどは、外出中の詩乃(国際教養学科1年山本詩乃さん)を含め、4人でシェアしているので、ホームシックになったり寂しいと感じたりすることはありません。

学習の面では、友達と一緒にやればやる気が出るし、わからないところなどすぐに助け合えるのがいいですね。生活面では、食材をルームメイトがわけてくれたり、落ち込んだ時は話を聞いてくれたり、食事は自炊ですが、ルームメイトみんなで料理する部屋もあって、各部屋で話し合っているみたいです。私たちの場合、料理は各自で、部屋の掃除は当番制。ナタリアが作ってくれた当番表を冷蔵庫に貼って使っています。

「国際学友寮なでしこ」ユニット見取図



各プライバシーを備えた4人部屋。寮の共有スペースとして、ミーティングルームや大広間、ランドリールームなどがある。日本人学生は1年次のみ入寮。2年進級時に希望者の中から4人選出され、入寮者を総括する「なでしこメイト」としてそのまま寮に残ることができる。



パーティなどでも使用する共用キッチン

環境科学科1年

益満 由紀さん

鹿児島県立鹿児島中央高等学校出身

●お気に入りの場所
カフェ Nan の木

WJC留学生

ジェジツカ・ナタリアさん

ポーランド ワルシャワ大学出身

●お気に入りの場所
自分の部屋

寮生活 × 国際交流



国際教養学科1年

佐藤 莉望さん

大分県立大分豊府高等学校出身

●お気に入りの場所
C棟につながる外の長階段

国際色豊かなキャンパスで刺激のある毎日。

留学生を含めたルームメイトと生活することで、多様な価値観や考え方に触れながら、日常の中でも英語を身につけられる、福岡女子大学「国際学友寮なでしこ」での全寮教育。その寮生活やキャンパスライフについて、新入生の佐藤 莉望さんが語ってくれました。

寮で広がる友達の輪

入学後の1年間は学科や家の近さなどに関わらず、1年生全員が、寮で生活します。4人部屋で、そのうち1、2人は留学生です。

毎週月曜の夜には、何かしら英語に関わるテーマで行う全員参加の寮活動があります。英語伝言ゲームやしりとり、寮の良い点と改善点を英語でプレゼンなど、楽しい内容です。毎回違うグループ分けなので、1年経つ頃には、学年全員の顔と名前が一致しているんじゃないかと思っています。こういうのは、小規模校ならではの良いところですよ。

でも、「いきなり英語なんて無理」と思う人もいるかもしれませんが、AEPの授業は8段階のクラスにわかれてレベルに合わせて教えてもらえるし、毎日あるので、みんな自分のペースで英語力を上げていけると思っています。

部活やサークルは、他の大学と合同のものが多いですね。私が入っているのは、競技舞蹈のサークルです。ポーランドから来たルームメイトのナタリアは、なぜかK-POPダンスのサークルで活動中(笑)。由紀は、九州大学の野球部のマネージャーをしています。

年齢・国籍を越えて

入寮前は、留学生と言葉が通じるか心配でしたが、ナタリアは日本語も話せるので、困ることなく楽しく生活できています。留学生はずっと寮生活のため、年上の人もいます。私たちは前から寮に住んでいるナタリアに、洗濯機の使い方など、いろいろなことを教えてもらいました。

ナタリアは「新しいルームメイトができて仲良くなれる。ときどき日本語がわからないこともあるけど、英語でも意思疎通できるので安心」と話していました。

私はできるだけ多くの留学生と積極的に交流したいので、友達との部屋へ遊びに行き、同室の留学生ともお話ししています。

留学生ナタリアさん紹介

「子どもの頃にマンガやアニメを見て、日本に興味を持った」というポーランド出身のナタリアさん。日本文化や日本語を勉強していたところ、先生からWJCのことを教えてもらい留学を決意したそうです。

「WJCに参加したポーランド学生は初めてですが、ルームメイトやクラスメイト、留学生の友達もいるので、毎日楽しく過ごしています」。

international

2017.4.3

2017年度春学期 WJC プログラム
開講式を挙行了しました。

ディヤー・スリ・レトゥノ・ウランダリさん
インドネシア ガジャマダ大学出身


4月3日(月)、WJCプログラム(The World of Japanese Contemporary Culture Program)2017年度春学期の開講式を本学学生会館にて挙行了しました。開講式では、新1年生や本学教職員も同席し、梶山学長および新開副学長による挨拶、WJC留学生による簡単な自己紹介などが行われました。WJC留学生たちは、現代日本文化および博多伝統文化を学びながら、合宿型英語プログラムEnglish Villageやなでしこ寮での共同生活などを通して、日本人学生と交流し、福岡女子大学の国際化に貢献します。

WJC留学生インタビュー

●ガジャマダ大学ではどのような勉強をしていますか？

日本語はもちろん、料理や浴衣、折り紙など日本文化も学んでいます。

●福岡女子大学に留学した理由は？

他の大学に比べ、WJCプログラムは日本の様々な文化を学ぶことができ、また留学生生活を支えるJD-Matesやホストファミリー制度があるのも魅力に思いました。

●福岡の生活で困ることは？

豚を使わない食べ物を探すこと。でも、それもJD-Matesや日本人の友達が助けてくれるので難しくはないです。この前も「ラーメンを食べたい」とホストファミリーに言ったら、川端商店街でチキンラーメンのお店を見つけてくれました。

●将来の夢は？

世界中旅行をして、いろいろな文化を学びながら友達を作るのが現在の私の夢です。インドネシアでは女の子が一人で旅をすることは本当に難しく、一生叶わない夢だと思っていましたが、福岡での経験のおかげで今はそう考えることができます。

2017.3.
12-24

ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡(CASEUF)
国際教育プログラム・事務職員ワークショップを
開催しました。

本学が平成28年度に創設したCASEUF参加大学(ミュンヘン、ルーヴァン、ワルシャワ、マンチェスター、マヒドン、タマサート、ガジャマダ、ベトナム国家大学ハノイ校、アテネオ・デ・マニラ)と協力し、3月に二事業を実施しました。

国際教育プログラム(3月12日(日)～24日(金))では、EUとASEAN及び日本の環境政策、国際関係、法制度に関する講義を開講し、参加した留学生(18名)と本学学生(10名)は、共に学ぶ中で国や地域により異なる社会背景の多様性を認識しました。

事務職員ワークショップは、ASEANの4大学から国際系業務に携わる職員を招いて3月21日(火)に開催、各大学の国際化の取組みについて紹介し、本学からは国際化推進センターのコーディネーター全員が発表しました。海外大学の先進的事例を知るとともに、本学の国際化の現状を海外大学に伝える機会となりました。

また、職員間の国際ネットワーク拡大は大学の国際化に大きく寄与するものであるとの認識を、参加者全員が共有しました。



events

2017.4.3

福岡女子大学 第68回・大学院 第25回
入学式を挙行了しました。


4月3日(月)に、福岡女子大学第68回・大学院第25回入学式が挙行され、国際文理学部239名大学院23名の、合わせて262名が入学しました。

式では、梶山学長が式辞を述べ、来賓の小川洋 福岡県知事(代理 大曲昭恵 副知事)並びに中尾正幸 福岡県議会議長(代理 伊豆美沙子 文教委員会委員長)から祝辞をいただきました。その後、入学生を代表して横尾純奈さん(食・健康学科)が入学生宣誓をし、在学生を代表して中嶋美有さん(国際教養学科3年)が歓迎の辞を述べました。

新入生は、国内外で活躍できる次代の女性リーダーとなるための新たな生活のスタートを切りました。

また、式の最後に、本学卒業生の石川たかね氏をお招きし、「学んで遊んでチャレンジして～より良い未来を～」と題した記念講話が行われました。

石川氏は1991年に文学部国文学科を卒業後、西日本鉄道株式会社に入社され、2014年に西鉄グループ84社の中で初の女性社長となる、株式会社インキュブ西鉄の代表取締役社長に就任されています。

講話では、「様々なことにチャレンジすることにより、心の経験値を高め、寛容な精神を養うこと、自分自身を信じて前に進みより良い未来を切り開いてください」と入学生を激励されました。

2017.4.23

平成29年度 福岡女子大学開学記念式典を
開催しました。

4月23日(日)に開学記念式典・第6回ホームカミングデーを開催しました。

式典で、梶山学長は「2020年の教育改革では学生の『考える力』がより重要とされてくる。国際的で多様性(ダイバーシティ)のある本学で自ら考え解決する能力を養わせるとともに、トップリーダーとしての感性を磨かせることで、2023年の創立100周年に向けて教育の一流大学を目指して邁進していきたい」と挨拶しました。

式典の最後には、歌人でありフリーランスライターでいらっしゃる松村由利子氏による記念講演「情報を読む、世界を読む」が行われました。

IT(情報技術)の発達により情報量が急速に増大・多様化した現代社会において、いかに情報を取捨選択し、有効活用していくかということについて元新聞記者という観点からご講演いただきました。本学の理念である「時代や社会の変化に柔軟に対応できる人材」を輩出するうえでの課題や取組みを考えるにあたって、示唆に富んだ講演となりました。

また、同日午後には第2部として、工事関係者、同窓生ら約160名が出席し、3月に完成した本部棟の「完成記念祝賀会・懇談会」を開催しました。

工事関係業者の代表として株式会社東部産業代表取締役の山崎剛様に感謝状を贈呈した後、関係者及び本学の今後益々の発展を祈念して鏡開きを行いました。



academic life

日本産業衛生学会 優秀査読者賞を受賞して

第90回 日本産業衛生学会 2017.5.11-13

5月11日(木)から13日(土)にかけて東京で開催された第90回日本産業衛生学会にて、当学会が出版している英文誌「Journal of Occupational Health」の優秀査読者賞を受賞しました。査読とは、学術雑誌に投稿された論文をその分野の専門家として評価・検証することで、掲載して良いかの判断だけではなく、更によくするためのアドバイスをしたりしています。

この賞に選ばれたということは、査読内容が客観的に評価されたことであり、論文指導を業務とする私にとっては大変嬉しい賞です。本学は博士前期・後期課程が完成していますので、この経験を活かした論文指導をしていきたいと思っています。

食・健康学科
太田 雅規 教授

日本語パートナーズの活動を終えて

日本語パートナーズ 2016.7-2017.3

国際教養学科4年
坪井 揺安さん

昨年の7月から今年の3月まで、インドネシアで「日本語パートナーズ」という事業に参加しました。日本語パートナーズとは、日本政府が国際交流基金を通じて行っている事業で、ASEAN諸国の中学校や高校に赴き、現地の日本語教師の方の授業アシスタントをするというものです。日本語の授業はもちろん、巻きずしやたこ焼きなどをみんなで作ったりもしました。

インドネシアの高校生は純粋で明るく、様々な日本の文化や日本語の授業に興味を示してくれました。今でも彼らのキラキラと輝く目を思い出すだけで、この活動ができてよかったと心から思います。

国際教養学科4年
菊本 恵子さん

貴重な経験

今回、食・健康学科6人で結成したグループ「いきめん」で応募した「宮崎県福岡事務所主催『みやざきの豚と柑橘を使ったレシピコンクール』」のレシピがグランプリを受賞し、3月に博多阪急デパートで実演販売を行ってきました。自分たちで考えた料理をデパートで販売するということは初めてだったので、学ぶことだらけでした。買ってくださった方から美味しいという言葉やお手紙をいただき、「食」を通じてたくさんの人と繋がることができました。未熟な私達を指導してくださった先生方、支えてくれた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

「いきめん」メンバー 食・健康学科2年
代表 田村 知亜梨さん／増田 あかりさん／増田 育実さん
保崎 友香さん／矢野 智美さん／森山 瑞帆さん

デザインする楽しさ

私は、今年春に福岡県より発行された若い世代に向けた適正飲酒を呼びかけるガイドブックの作成に携わり、特に、編集作業におけるレイアウトやイラスト等のデザインを担当しました。初めての経験が多く、困難に直面する場面もありましたが、所属する環境デザイン研究室をはじめとする周囲の協力もあり、楽しみながら納得のいくガイドブックを作り上げることができました。福岡市内の大学や専門学校へ配布されたこのガイドブックが、今後の若者における適正飲酒の啓発に役立つことを願っています。

環境科学科4年
齊藤 格子さん

outreach

2017.2.2-4
3.9

福岡女子大学女性トップリーダー育成研修を開催しました。



福岡女子大学女性トップリーダー育成研修とは、主に上級管理職の女性を対象とした、トップリーダーとして必要な素養を身につけネットワークを構築し、さらに上の階層を目指す女性のための研修で、平成28年度初めての取り組みです。

受講者に現在管理職として活躍する女性20名を迎え、2月2日(木)～4日(土)に宿泊研修、第2回目として3月9日(木)にフォローアップ研修を行いました。

全2回の研修では、「女性トップリーダーとしての本質的な心構え」に重点をおいたプログラム「志」「教養」「感性」「行動」を軸に、講演やワークショップを実施しました。

2017.3.11

東部地域大学連携シンポジウムを開催しました。



東部地域大学連携(福岡女子大学・九州産業大学・福岡工業大学)では、福岡市東区の委託を受け、「超高齢・長寿社会を支える地域力を考える～福岡市東区のケース～」をテーマとした調査・研究を行い、その成果発表として3月11日(土)に九州産業大学にてシンポジウムを開催しました。

本学からは野依智子教授と学生3名が「UR香椎若葉団地における多世代共生によるコミュニティ活性化の取り組み」と題して発表し、また続くパネルディスカッションでは本学庄山茂子教授がモデレーターを務めました。

2017.3.30

宗像市との包括的連携協定を締結しました。



3月30日(木)に、宗像市役所において、福岡女子大学と宗像市における包括的連携協定の調印式が行われました。

福岡女子大学と宗像市はこれまで、宗像産アナゴのブランド化に関する研究や、アートマネジメント人材育成事業を連携して実施してまいりました。本協定の締結を契機に、より広い分野で連携事業を推進し、お互いの資源や機能を活用していきたいと考えています。

2017.4.
17-28

高木 秋子 展 - 福岡女子大学の教育が育んだ 高木秋子の染織の世界 風通織に至る道筋 - を開催しました。



4月17日(月)～28日(金)福岡女子大学美術館にて、染織家 高木秋子氏の作品展を開催しました。

高木氏は、前身である福岡県立女子専門学校を1937年に卒業し、戦後に染織を始めました。自然素材由来の染色材料へのこだわり、細かい織の設計、そして創造性に、女子専門学校時代の教育が生きたようです。

期間中には多くの方々にご来場いただき、本学学生、同窓会会員、および近隣地域の方々の心に強い印象を残したのではないかと思います。

福岡女子大学 平成29年度 公開講座のご案内

(7月～10月実施分)

福岡女子大学では、地域の皆さまの生涯的な学習に貢献するため、毎年、様々な公開講座を企画実施しています。
どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお申し込みください。

7/28金

13:30～15:00

受講料／500円

※高校生・本学学生無料

講座番号 B

「エネルギー政策と原子力の危機管理」

本講座では、福島原発事故の現場を踏まえて、
日本のエネルギー問題の今後について考えていきます。

講師 環境科学科
藤岡 祐一 教授

9/2土

10:00～11:30

受講料／500円

※高校生・本学学生無料

講座番号 C

「充実した暮らしをサポートするまちづくり：
有機的な地域システムとは」

本講座では、将来に向けた様々な課題を背後に踏まえながら、
1人ひとりが生きがいをもって暮らすことのできるまちづくりにつ
いて、一緒に考えていきます。

講師 国際教養学科
中村 大輔 准教授

「ドイツ映画Ⅲ：移住背景を持つ監督の映画」

最近、ドイツの難民の受け入れが話題になり、異文化圏の難民・移
住民がドイツ社会に適合できるかと疑問視されています。そこで、本
講座では、移住背景を持つ監督のドイツ映画を通して、移住民の現
状や問題、ドイツ文化への貢献について考えていきます。

講師 国際教養学科
Sven Holst 准教授

受講料／各回500円

4回分まとめて申込の場合

1,500円

※高校生・本学学生無料

講座番号 D-1

9/29金

16:30～18:00

第1回「ドイツの移住民」

ファティ・アキン監督『愛より強く』(2004年)解説と映画鑑賞

講座番号 D-2

10/6金

16:30～18:00

第2回「移住民についての映画、移住民よりの映画」

ファティ・アキン監督『そして、私たちは愛に帰る』(2007年)解説と映画鑑賞

講座番号 D-3

10/13金

16:30～18:00

第3回「移住民の文化貢献」

ファティ・アキン監督『ソウル・キッチン』(2009年)解説と映画鑑賞

講座番号 D-4

10/20金

16:30～18:00

第4回「移住国ドイツはこれからどうなる」

ヤセミン・サムデレリ監督『おじいちゃんの里帰り』(2011年)解説と映画鑑賞

※ お申込み方法、受講上の注意点など詳しくは下記URLからWEBサイトをご覧ください。お電話・メールにてお問い合わせください。

お申込み・お問い合わせ

福岡女子大学 地域連携センター
〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1

Tel. 092-661-2728(直通)／092-661-2411(代表) Fax. 092-692-3220
E-mai rcle@fwu.ac.jp URL http://www.fwu.ac.jp/collaboration/

教員図書紹介

『家族』という韓国の装置
血縁社会の
法的なメカニズムとその変化



著者 岡 克彦 (国際教養学科 教授)
刊行 2017年4月10日(総272頁)・三省堂

本書は、「家族制度」という観点から韓国社会を捉えているところにその面白みがある。韓国は「血縁社会」である。建国期や民主化の過程を経て、この血縁社会が変化していく有り様を詳述している。

平成29年度 科学研究費助成事業 一覧 (五十音順)

今年度、福岡女子大学教員が研究代表者として行う科研費助成事業についてお知らせします。

	研究種目	所属	職	教員氏名	研究テーマ
基 金	基 盤 研 究 C	食・健康学科	准教授	石川 洋哉	におい分析に基づく抗酸化物の相乗効果解析と新規食品酸化抑制技術への展開
		環 境 科 学 科	准教授	猪股 伸幸	同所的に生息する湖沼性淡水魚の体色の類似化と色覚の関連性に関する研究
		環 境 科 学 科	准教授	岩崎 慎平	漁業者主導による森林 commons の可能性・漁民の森づくりの活動実態に関する比較研究
		国際教養学科	教 授	大久保 順子	国語教科書の日本近世作品教材の研究－解釈受容と教育の展開の分析
		国際教養学科	教 授	岡 克彦	性的マイノリティの人権救済をめぐる韓国の「積極司法」の構造的特質に関する研究
		食・健康学科	准教授	小林 弘司	培養細胞固定化センサチップを用いた SPR センサによる細胞毒性評価法の開発
		国際教養学科	教 授	坂本 浩一	福岡に残る洋学資料コレクション・筑紫文庫資料を主対象とした近代対訳辞書の基盤研究
		国際教養学科	准教授	徐 阿貴	韓国における結婚移住女性の政治的主体化－トランスナショナルな組織活動を中心に
		環 境 科 学 科	教 授	庄山 茂子	循環型社会と男女共同参画社会実現に向けた職場における制服のあり方について
		食・健康学科	教 授	新開 章司	医農連携による機能性農産物の開発と普及のためのマーケティング調査
		食・健康学科	准教授	高橋 徹	臨床応用に向けた消化管内内容物の自由水制御による食後血糖コントロールの方法論の確立
		環 境 科 学 科	教 授	瀧下 清貴	嫌気環境に対する適応進化の初期段階にある退化的ミトコンドリアの機能解明
		国際文理学部	教 授	長野 真弓	児童・生徒の心身の不調および多日数欠席の抑制に関わる体力・身体活動量の縦断的検討
		国際教養学科	准教授	中村 大輔	社会的厚生関数を用いた経済主体の立地意思決定と持続可能な地域経済に関する分析
		食・健康学科	教 授	中村 強	腸内細菌叢と非アルコール性脂肪性肝炎の病態進展との関連に関する基礎的検討
		食・健康学科	助 手	西原 百合枝	エスプーマ調理器を使用した泡状ゲルのテクスチャー特性の解明と高齢者用食品への応用
		国際文理学部	教 授	野依 智子	ホームレス状態にある若年女性の生活・就労・社会的自立支援のためのシステム構築研究
		国際教養学科	准教授	橋本 直幸	話題別多読を用いた付随的語彙学習の体系化に関する研究
		国際文理学部	准教授	吹原 豊	対話型アセスメントとPAC分析を援用した児童生徒のバイリンガリズムに関する研究
		環 境 科 学 科	助 教	福田 裕美	食事誘発性熱産生を指標とした光と食事がサーカディアンリズムへ及ぼす影響の把握
補 助 金	挑 戦 的 萌 芽 研 究	環 境 科 学 科	准教授	松尾 亮太	非眼性光感知に基づく負の光走性行動の研究
		国際文理学部	准教授	湯田 ミノリ	フィンランドにおけるSTEM教育としての地理教育のカリキュラムと教育方法の研究
		国際教養学科	准教授	吉田 信	植民地権力と私的領域の編成過程－蘭印と英領マラヤの婚姻法制の比較研究－
		食・健康学科	教 授	濱田 俊	新手法によるビタミン機能の解明・補酵素結合RNAの探索と機能解析
		食・健康学科	助 手	濱野 桃子	肝臓のセリン合成能と肥満との関連性の究明
		国際教養学科	講 師	坂口 周	日本近現代文学の視覚文化論的研究
		環 境 科 学 科	准教授	嶋田 大作	commons の環境保全機能を維持・再生するための費用負担構造の解明
		環 境 科 学 科	准教授	藤岡 薫	生体分子に基づく自律分散型システムの開発
		食・健康学科	助 教	南 育子	食品への照射技術の新たな応用の可能性の検討
		国際教養学科	講 師	山根 健至	治安部門ガバナンスにおける市民社会の役割に関する研究・フィリピンの事例を中心に
補 助 金	基 盤 研 究 B	環 境 科 学 科	准教授	小崎 智照	メラトニン分泌抑制を軽減するLED照明の点滅特性
	新 学 術 領 域	国際教養学科	准教授	吉田 信	植民地における移動の自由及び旅券・査証制度の構築に関する研究

人事消息 任期は、平成29年4月1日から平成31年3月31日まで(一部平成30年3月31日まで)

理事長兼学長	梶山 千里	国際文理部部長兼文学部部長	中村 強	学術・情報センター長兼図書館長	太田 雅規
副理事長兼戦略企画センター長	渡辺 浩志	学長特別補佐 学長特別補佐の任期は平成30年3月31日まで	松田 美幸	兼食・健康学科長	
常務理事兼事務局長	高山 晃	学長補佐	庄山 茂子	国際化推進センター長	川邊 理恵
理事兼副学長兼教育企画会議議長	今井 明	学長補佐 学長補佐の任期は平成30年3月31日まで	馬 昌珍	地域連携センター長	CHOWDHURY Mahbubul Alam
副学長兼入試・広報・キャリア支援センター長 兼人間環境科学研究科長	吉村 利夫	学長補佐	渡辺 俊	国際教養学科長	坂本 浩一
副学長兼共通教育機構長 兼女性とリーダーシップセンター準備室長	野依 智子	人文社会科学研究科長 兼国際文理部部長補佐	尹 豪	環境科学科長	馬 昌珍
副学長兼教育・学習支援センター長	新開 章司	文学研究科長	宮川 美佐子	国際フードスタディセンター準備室長	片桐 義範
				大学教育再生加速プログラム(AP)推進室長	池田 宜弘

新任

国際教養学科 教 授 佐藤 秀樹	■ 経済政策	環 境 科 学 科 教 授 辻 信一	■ 環境政策学
国際教養学科 教 授 長岡 真吾	■ アメリカ文学・文化	食・健康学科 准教授 南里 明子	■ 公衆栄養学
国際教養学科 教 授 山下 哲生	■ 外交、国際関係	食・健康学科 特任教授 松永 直子	■ 給食経営管理論
環 境 科 学 科 教 授 瀧下 清貴	■ 原生生物学	食・健康学科 助 教 南 育子	■ 食・健康科学
環 境 科 学 科 准教授 小崎 智照	■ 環境衛生・計画学	共通教育機構 講 師 都地 沙央里	■ AEP

昇任

国際教養学科 教 授 大久保 順子	■ 国文学
国際教養学科 教 授 坂本 浩一	■ 日本語学
国際教養学科 教 授 宮川 美佐子	■ 英文学
環 境 科 学 科 准教授 藤岡 薫	■ 情報数学
食・健康学科 准教授 小林 弘司	■ 食品衛生化学